



手取川古戦場



呉竹文庫駐車場に建つ手取川古戦場碑

天正5年（1577）9月15日、畠山家臣の遊佐氏・温井氏らの内応により七尾城を落とした上杉謙信は、織田軍進攻の報に南進を開始し、9月18日には加賀・能登国境近くの末森城を攻略、さらに南進して一向一揆が守る松任城に和睦して入ったとされる。

これに対し、織田信長方の柴田勝家は七尾城の畠山氏の援軍として加賀に進入する。加賀一向一揆の城を攻略しながら9月23日に全軍が手取川を渡り終えたところで、七尾城の落城と上杉軍の松任城入城を知り、即座に撤退を開始したが、手取川が増水していたことで渡河に手間取っている間に、背後を上杉軍に追撃され多数の死傷者が出た上に、手取川の激流に溺死者も多数出たとされる。

その後、上杉謙信は9月26日に七尾城に戻って城の修復を指示している。一方の織田軍は御幸塚城に佐久間盛政、大聖寺城に柴田勝家の手勢を残して、10月3日に北ノ庄城に戻ったとされる。

合戦地：石川県白山市（手取川右岸）

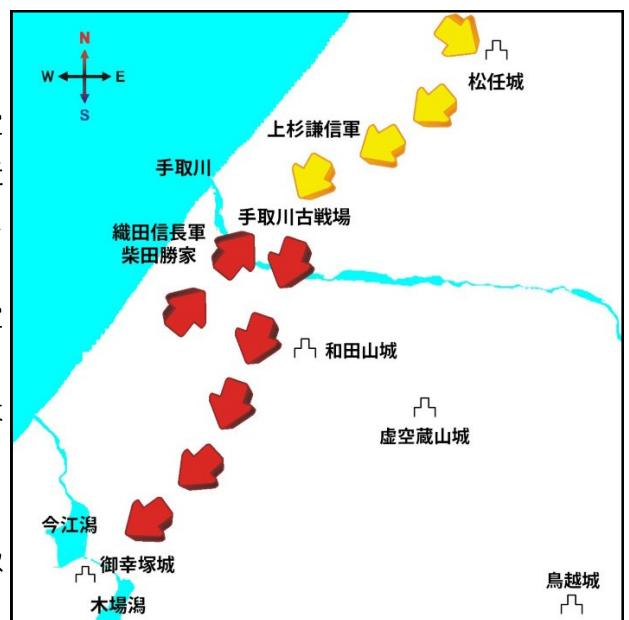
対戦者：上杉謙信 vs. 織田信長

軍勢：上杉軍 約12000

織田軍 約40000 総大将・柴田勝家

開始年：天正5（1577）年9月

「手取川の戦い」は上杉謙信と織田信長が対戦した唯一の合戦になるが、信長自身は参戦していない。同時代の一次史料が見つかっていないため不明な部分が多く、後世の史料から織田軍に多くの死傷者が出了合戦とされる。



実際の合戦は手取川右岸で行なわれたと想定されているが、古戦場碑は対岸の白山市呉竹文庫の駐車場に建っている。

手取川古戦場碑にも記された落首

「上杉に逢ふては織田も名取川（手取川）」

はねる謙信逃ぐるとぶ長（信長）」

は手取川の戦いぶりを揶揄したもので京童が口ずさみ広まったといわれる。

古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ

北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）

〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘 3-9

TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943

E-MAIL. contact@j-sampo.com

ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>